

群青の風

発行所
峰短大 長賀平市 市平賀長峰
岐阜医療技術 市市平賀長峰
同窓会

☎(0575)22-9401

会長あいさつ

森 晴 雄

本会の会員数も年々増加し、今年度は四七〇〇名にも達しました。こうして、我々の仲間がどんどん増えていくことは喜ばしいかぎりです。しかし、医療を取り巻く情勢は厳しさを増しており、医療費の増大による保険点数の見直し、包括医療など医療経済は困難な情勢になりつつあります。そのあおりを受けてM科R科における就職状況はますます厳しくなっているとのことです。一方で、医療の進歩は日進月歩であり、最近では脳死状態からの臓器移植など、高度医療にも対応を迫られつつあります。さらには患者の取り違えなどの医療ミスもマスコミをにぎわしています。医療人である我々は、こうした情勢にいかに対応するかが求められており、まさにこれからが真価を問われる

時代です。しかし、医療を受ける人のために何をすれば良いのかという原点にふり返れば道は自ずと開けるものと思えます。みなさん、一緒に頑張ってください。張って行こうではありませんか。

ご存知の方もあるかと思いますが、看護学科に専攻科が今年度より開設され、来年には、第一期生の四二名が巣立ちますが、この修了生の方も本会の会員になっていただきました。同窓会といたしましても、母校と共により一層の発展が期待できるものと思えます。

高度情報化社会と言われて久しくなりますが、母校のホームページを一度ご覧下さい。また、同窓会事務局のメールアドレスをお知らせします。多くの会員の方々の声や住所の変更など何でも結構ですからお寄せいただければ幸いです。思います。

大変お待たせ致しましたが、同窓会名簿を一緒に発行する事になりました。年々会員数

が増加し十分な把握が困難な状況です。是非とも、変更などありましたら、またお知り合いの方の情報などをご存知の方はご一報いただきますようお願い申し上げます。

GM四回生三組同窓会

西尾 清孝

平成十一年五月十四日、全国学会にあわせ広島にて同窓会を行いました。

二十名は集まれる予定も皆忙しくドタバキャンも相次ぎましたが、幹事の西谷君のご尽力により開催することができました。

居酒屋からカラオケボックスへと移動しましたが歌も学生時代の話も尽きない夜でした。歌を歌っているときは、かなり皆ストレスがたまっていくようでした(オマエが一番たまってるといわれました)。

やはり二十年もたつと転職したり、FMSやプランチになったり、いろんな話題や近況報告がありました。

最後に手持ちの名簿が古く手紙が届かなかつたり、電話番号が違っていたりして同窓会を知らなかった人ゴメンナサイ。次回は五年後(平成十六年)、岐阜の下呂温泉で開催することが決まっています。幹事は前田君にお願いしまし

たので近況報告とあわせ住所等知らせてあげてくださいね。あっそれから女性の方は同窓会に出席させてもらえるように今からダンナ様のご機嫌をとっておい下さい。



短M十三回生二組同窓会

草野 幸恵

十三回生二組同窓会を平成十一年三月十三日に岐阜市柳ヶ瀬のやぎやにおいて行いました。

卒業後一年しか経っていなかったため、皆あまり学生時代と変わってなく学生の頃のように話題が尽きることなく盛り上がり、楽しい時間を過ごせました。

仕事を始めてまだ一年足らずで、検査という仕事を含め人間関係でも苦労していることは皆同じで共感を覚えるところ

ころがたくさんありました。また恋愛についても話が盛り上がり、もうそろそろ結婚のニュースが入ってきそうな方もありました。

今回はまだ一回目だったため、参加して下さった皆さんはやはり岐阜県周辺の方が多く、各地方の方は残念ながらも顔を拝見することができなかったのですが、二回、三回と行う予定ですのでその時は楽しみにしています。



同窓会

短R三回生

山元 卓

第六回の同門会が開かれたのは、九月二十五日です。この日は台風一過の秋晴れを期待しておりましたが、曇り時々雨混じりのあいにくの天気、なおかつ湖南寄りの草津駅前のポストンホテルという地理

的不安と再会できる期待の交差する中で、ホテルに入りエレベーターにて最上階の部屋を訪れると、先輩・同輩・後輩の懐かしい面々が滋賀・京都から十七人の方々が集まっています。

国際R科二回卒 大津赤十字病院津田康弘さんの開会の挨拶が始まりました。今回の講演は、短大R科一回卒 大津市民病院中原喜彦さんの「病院新築時におけるオーディオリングシステムについて」と兼ねてから杉浦先生にご依頼しておいた「母校の現状」を小野木先生から講演していただきました。

中原さんの「病院新築時におけるオーディオリングシステムについて」は、新築前の計画案からシステム設置後に起こった人の動きの変化によるケアレスミス等設置後でしか分からない諸問題についてどのように解決されたか事細かに解説して下さいました。

医療界は、今後コンベンショナルからCR等のデジタル系に移行する可能性が大きいく、この会に参加された方々の参考になったのではないかと思います。

続きまして、小野木先生から母校の現状という事で十数年前の懐かしい話を織り交ぜながら現在の学校の写真や周囲の環境の変化と月日が経つ早さも目を丸くしていると、それよりもさらに深刻な状態として四大への移行の難しさ、そして近年の少子化による学

生の減少や不況による就職率の低下など問題があると言われ、懐かしい話による楽しさ半分、深刻さにもどかしさ半分の複雑な思いでした。

とまあ、堅い話はこのままでにして、この後の懇親会ではアルコールが入ったことにより饒舌になり先輩・後輩関係なく肩肘を張らず、昔話に花を咲かせ、また各々の近況を語り合っているとみんないい大人やのに学生時代戻ったような感じがしました。

講演 二時間、懇親会 二時間 「あつ」という間に時間が過ぎ、次回の再会を楽しみに部屋を後にしました。

最後に、この文を目にして「おもしろそうやな・なつかしいな」と思った方は気楽な会なのでどんどんどご参加下さい。開催日時をお知らせします。

連絡先

〒550-8511
大津赤十字病院 放射線部

山元 卓 まで
☎〇七七五二二四二二二

内線二二〇〇



恩師を偲んで

足立恵子先生の思い出

松山 真紀

足立先生には、私達二回生は副担任として三年間大変お世話になりました。いつもバスで通勤しておみえになり、大変だったと思いますが、いつも明るく笑顔が素敵でした。大学祭の時などには、お孫さんを連れてみえたりと、先生とは違った家庭的な部分も時には見せてくださったり楽しかった事を覚えています。

授業の方では先生には母性看護学について教えていただきました。先生の臨床での体験談を入れながらの授業は楽しく、また興味深い話が多くて聞き入ってしまう事が多かった事を思い出します。教科書だけではない勉強を学生時代からすることができた事は、臨床の場に出てからも大変役に立ちました。そんな授業の中で母性看護の難しさはもちろん、楽しさもたくさん学ぶことができました。

また勉強に関することはもちろん、私生活での悩みなども相談のつてもらった学生も多かったのではないのでしょうか。卒業後の進路についても先々のことを考えながら、親身になってアドバイスをいただきました。私は授業の中で母性看護学に大変興味をもち、この方面に進みたいと強

く思い、卒業後産婦人科病棟に勤務してきました。そして今年、助産婦になる為に母校の専攻科で勉強する機会をいただき学生をしています。卒業してからでも母校に恩師の先生がみえるという事は、いつでも相談に行けるといいう安心感があるのですが、足立先生が他界されてしまったことは、非常に残念です。多くの経験がされている足立先生からは、まだまだ教えていただきたい事はたくさんあります。

これからの助産婦となり、生命の誕生の手伝いというすばらしい仕事につける事を、ほこりと思い、足立先生に教えていただいた事を忘れず、先生の後輩として働いていきたいと思えます。

謹んで足立先生のご冥福をお祈りします。

斎藤先生との思い出

金丸 ユミ子

「オマエが国試に落ちたらオレは、さか立ちして校内を一周してやる。最近、目に見えて体が衰え、講義も中断したり、休んだりしている先生が、国試目前急に弱気になった私にそう言って足早に去って行ってしまいました。

今、思うと先生は、すばらしい悪役スターでした。学内では、怒って説教ばかり言う気難しい先生。学生の頃の私も友人も、実は先生のことを苦手で、いつも何を言われる

かビクビクしていました。先生に会うと下を向き、避けるように早足で通り過ぎていました。

ところが、国試も終えた卒業式の夜、先生は、クラス全員の前で涙を流し、こう言いました。「今までみんなにひどい事はかり言ってきたが、みんなのためだと思えば、もうしてきたくはない。先生も、夢にも見た事のない先生の、あまりにも違いすぎる姿に、クラス一同、皆、おどろき、疑い、先生の本当の心を知り、いつの間にか皆、泣いていました。先生に怒られ、先生に対して腹を立て、先生を見返してやろうと、がんばってきた私達はみごとに先生の名演技にだまされ、検査技師になることができたような気がします。

お見舞いに行った私達に、コルクのカスだらけのワインでもてなしたくれたささくな先生、まるで父親のような神妙な顔をして、結婚式に参列して下さった優しい先生。

先生は、時々「だめだ」と私に激を飛ばしながらいつも笑顔で、私の心の中に住んでいます。「ところで、先生、逆立ちなんてできるの」と聞いてみたくなりました。

群青の風 第一〇号で故斎藤富樹氏ならびに故足立恵子氏を偲ぶ原稿を募集致しましたところ、二名の会員から、原稿を頂きました。ありがとうございました。

学長をお迎えして

一〇月定例役員会に上野学長をお迎えし会談をしました。発言者 上野学長、森会長、増田顧問(前会長)、坂本顧問、武藤会計担当、事務局

森：夜遅くにお疲れのところありますが、どうぞいませ。さて、現在の学生はいかがですか。

上野：例えば大学祭ですが地域住民の皆様が参加できる内容を切望しています。各学科でテーマを決めて各学科の専門の先生方にご助言を頂き、見学者の勉強になる催し物にして欲しいのです。しかし学生の反応は、なく自治会役員だけが動き回っているだけなのです。今はこういう時代です。私は学生に「常々 Dream Think Do」の言葉を言います。夢を持ちその実現に向けて考えて実行することが大切で、知識が豊富にするだけで実行が伴わなければ評論家 Doつまり行動が伴わなければ意味がないと、残念なことです。母校二六年の伝統が悲しいですね。

増田：学生夫々に個性はあつていいものですが、生きていく上でルールは守らねばなりません。経済が貧しかった頃は幼児期から働いて家計を助けていたが、今は自立が遅れています。この様な人間が卒業する為、指示待ち人間が目立っている感じがします。

武藤：ところで、ピアスはファッションと見なされますか。実習生に対しては、病んだ人を診るのに親からもらった五体満足な身体に孔を開け、傷つけるとは何事か、と口うるさく言います。いやなおっさ

高島：個性重視か一般社会重視か二通りの捉え方がありますが、本学は身だしなみの観点から強く指導しています。

上野：茶髪やピアスで臨んだ就職試験は不利ですか。試験官の大勢はその様な考え方が多いと思います。

小野木：どの様なスタイルでも自分の個性ですから良いと思います。裏付けがなければただのかっこうだけになつてしまします。

森：表面的に流行で皆同じ、かつこの方が実際ではないかと思えます。横並びで皆同じかつこうでないという部分があるからやっているのではないのでしょうか。そうではなく個性はもつと別の所にあるのではないかと思えます。

坂本：大学祭でこの様な話を学生と交わってできる一番良いのですが、上野：そうですね。武藤：大学祭にこだわらなくても良いと思えますが、中略

武藤：国際医学では国試合格が最終目的でしたが、近年の母校は学校ランク、偏差値は上がってきているとよく耳にします。最近はどうですか。

小野木：厚生省の目的はそれなんです。文部省は資格取得に固執するの

武藤：わかりました。R学科学は一年生から病院学科学はどの様な様子ですか。

上野：R学科学は新入生の early exposure ということで行っており、N学科学では一年生時、病

増田：全く知識のない学生が一日行つておられます。医療施設へ出向くわけです。難しいのでは

小野木：意識を持たせることを目的に行つてはいます。見学先によつては一週間でも困るという所もありました。今ではご理解頂いています。

坂本：学生の反応はいかがですか。小野木：附属病院がありませんから見学後医療の雰囲気が見えだすので、立

上野：何か変つたことはいとあります。武藤：推薦入試において昔と何が変つたことはありますか。

上野：推薦入試での面接では、本学への動機は本人、又は家族が病気になる、その時に病院等でお世話頂いたことが機にこの道に進みたいと言います。高等学校や受験産業での指導の方法に従つて、ありきたりなことを言っております。

高島：検査の場合、以前はなんとなんとなんと驚いた学生が目立っていました。最近では進学雑誌で取得できる資格には何かあるのか、と調べた上で本学を選んできたとの声が増えてきました。

上野：何か機会があれば先輩と学生との語り合える場があれば良いですね。ある時期毎年大学祭でOBと語る会を行つて来ましたが、学生の自主的参加の下で開催するには無理があり、強制的な参加では学生の思いが解りませんでした。

上野：かしまつてしまうと言葉が出ません。ベタリアンでフランクに語り合う催しをお願いします。

増田：何年前に行いましたが、学生は集まつて来なかつたですね。上野：元氣のある学生が少なくなつて来ましたから、残念です。

森：時間も遅くなりましたのでこれで終了致しました。まともがなくなりました。上野：ありがとうございます。

上野：ありがとうございます。

母校創立二〇周年に寄せて

平成五年母校創立二〇周年を祝う記念事業を母校との共催で進めましたが、諸般の事情で唯一記念誌発行事業が中止となりました。

記念誌を心待ちされている方は勿論、特に原稿をお寄せ頂いた卒業生の皆様にお詫び致します。ここに執筆者の承諾を得まして記念誌掲載予定であった寄稿文を紹介します。

学生時代の思い出

国M一 竹中 清悟

なつかしき学生時代、恩師、同級生ならびに後輩の人達を思い浮べながら二〇年前にタイムスリップしたいと思いますが、ただ、小生の想出をたどってもどこか甘く不透明な記憶しかないのが残念です。

さて、一期生であったので、三年間を通して考えますと、良かったのか悪かったのか「先輩がいない」ということがとても残念でした。しかし、二期生、三期生とはその分かなり仲良く過ごせた感があります。

入学したての頃の校舎は、あの大阪万博でパピリオンに使用していたという分厚いガラスを用いたユニークな教室が南側にあり、北側の教室の

窓はほとんどアルミサッシであったと思います。また、実習室といえは卒業生の誰もがわかる体育館でありました。そしてその間には、まだブルドーザーが置いてあったと記憶しています。

その実習室で、確か手回し式の遠心器が印象として残っているのですが、生化学の実習でよく使用しました。今から思えば石器時代のようなもので、それがまだ残っているとしたら、化石ともいえるものだと思います。さらにもう一つ挙げるとすれば、顕微鏡の光源がミラーによる自然光を利用していたことです。(曇っている日は見にくかった。)

二年生になるといよいよ待望の後輩が入学し、また同時に診療放射線技師科も開設され、学生数も多くなり、私がお世話になっていた天然寺寮も人数が多くなってきました。現在でもこの天然寺の同窓会(二〜三期生)は一年に一回二年に一回行なっていることからわかるように、勉強はもちろん、スポーツ、娯楽(麻雀、パチンコ、etc.)に至っては毎日のように同時進行(親交?)が多く、楽しかったことにまちがいないと思います。そして三年生となり、いよ

いよ国家試験が目の前にやってきた。先輩はいないし、学院にとっても初めてのことであったので、どれをどれだけ学習すれば良いのかわからず、悩んだことが思い浮かびますが、どちらかといえば、不安なだけに隅の隅まで学習したのが、今から思えば逆に良い結果であったと思います。

現在は近畿大病院の技術係長として勤務していますが、ただ後輩にまた先生方にお話しして置きたいことがあります。毎年、当検査部にも病院実習生がやってくるのですが、時代の流れを考慮したとしても、基本的な操作が未熟になつていく感が多々あります。たぶん、卒業生の人達も同じ事を感じていると思います。よろしくお願い致します。

最後に、医療全体、医療短大、また臨床検査にとつても節目に当たる時だと思えますが、益々の発展を願ひながらタイムトラベルを終了したいと思います。

医療技術短大二〇周年によせて

短M一 内田 文也

岐阜医療技術短期大学二〇周年を迎えられ、先生方をはじめ学校関係者の皆様に、心よりお祝い申し上げます。

三宅先生よりお電話で本原稿の依頼をいただきました。日頃仕事に追われがちで、なかなかのんびりと昔のことを思い浮かべることなどなかったので、自分を振り返ってみるという機会を頂いたと思っています。

昭和五八年に短大一期生として入学してから、早いもの一〇年が過ぎ去りました。入学当時は、これから待ち受けるあの厳しい学校生活など何も考えず、ただただ親元を離れて下宿し、自由を手に入れた喜びと、なんともいえない解放感でとても新鮮な気持ちだったことを記憶しています。そんな気持でスタートした三年の間に、さまざまな出会いと別れがありました。

岐阜医短で得た友人は、高校までの友人とはちよつと違って、同じ目的をもった者達が、同じ先生方から教育を受け、同じ職業に就くといった特殊な環境の中で同じ時を過ごすわけです。そして卒業後も、同じ職業を持つ者同士にしかわからないような気持をわかりあえる貴重な存在でもあります。また学年は違っても岐阜医短(国際)の卒業生だと聞くと、なぜかそれだ

けで気持のつながりを覚えるのは僕だけでしょうか?

先日高校時代に野球部で一緒だった友人の結婚式に出席し、他の部員とも数年ぶりに再会しました。進路はそれぞれ異なり職業は違いますが、時を越え昔の話で盛り上がり、また今の仕事の事や子供の話などで楽しい時を過ごしました。夢の甲子園を目指し、一緒に汗を流した友人というのは本当にいいものです。

在学生の皆さん、すばらしい出会いを大切にしてください。卒業生の皆さん、ちよつと昔を懐かしんでみてください。同じ目的を持って同じ時を過ごした友人をこれからも大切にしたいと思えます。そしてその中心となる岐阜医療技術短期大学の歴史を、これからも先生方学校関係者の皆さんと共に、我々卒業生も大切に築き上げていきたいと思えます。

大人になつたら何になりたい?

国R九 中司 等

「大人になつたら何になりたい?」という問いかけは小学校からの定番の質問です。私はこの質問の意図する処と

言おうか、自分でも何になりたいのか皆目見当がつかず、父親と同じ職業を答えとして用意していました。

母校を目指すきっかけとなったのは、高校の頃の父親の事故が原因と思います。屋根から落ちて脳内出血で危うい状態でしたが、丁度開院したばかりの脳神経外科の専門病院で一命を取り留めました。その頃普及し始めたCTのお世話にもなり、放射線技師の職業を知るに至って母校に入学したわけです。

当時初めて旧国鉄の越美南線（現長良川鉄道）で関に降り立ったとき、ディーゼル列車の扉が手動だったことと、お年寄りの会話がわからなかったため、とんでもない田舎という印象を受けました。然し親元（広島）から少しでも離れた土地で生活したかったのと、生活費や下宿代も安くすむ事から関での学生生活を続けることにしました。

三年間の学生生活は光陰矢の如しで勉強とバイトと遊びの中で過ぎたように思います。関も最初の印象とは違って住めば都で、自然あふれる（私の下宿の隣は牛小屋だった）環境で、充実した学生生活を

送ることができました。

勉強に関しては、科目が多岐に亘っている中に基礎教育等もあるために、わりとハードなスケジュールでしたが、国家試験免許取得の最終目標が決まっているので、あまり苦にならないかったのを覚えています。

今回母校も創立二〇周年を迎えられ、誠におめでとうございませう。創立以来多くの困難を乗り越え今日の隆盛を成し遂げられたのは、ひとえに小林学長先生をはじめ諸先生方の優れたご指導によるものと拝察致します。

本学も四年生大学を目指されることですが、これからは研究部門での強化を望みます。いま私は一般企業に就職して、新規業務の企画開発を担当しています。仕事を通じて様々な先生方に出会い、それらの経験が貴重なものとなつていますが、学生時代の修学内容の多さと、三年間という期間の短かさゆえに、研究する作業が不足していたことを残念に思うことがしばしばあります。自分で目標をもって参考文献等を調査し、実験の上で検証していく作業は、人生の中でも良い経験に

なると思っています。

「大人になったら何になりたいか？」の答えを見いだすのは自分しかなかく、それまでの経験から判断することになります。その場合の選択肢を拡げる事が大切だと思うのです。本学のこれから益々の発展に多いに期待します。

創立二〇周年によせて

短R三 塚寄恵美子

このたびは岐阜医療技術短期大学創立二〇周年おめでとうございませう。

私も卒業して早く七年が経とうとしています。山の上にあったあの学舎も看護学科の新設に伴ってかなり拓かれたと聞きました。正門からの「国試坂」も少しはゆるやかになり、楽々と登ることができるようになったのでしょうか？在学生の皆さんには日々進歩する医療技術の基礎を十分身につけてほしいと思つています。学生時代に、関で皆と一緒に過ごしたことも、国試坂を登ったことも貴重な時間であり、とても良い思い出です。現在私は金のシャチホコで知られる名古屋城の隣にある国立名古屋病院に勤務して

おります。三次救急指定病院のため月に一、二回当直業務もあります。患者さんなどからよく「女性なのに大変ね」と言われますが、それほどでもないの（やはり大変だと云っておこうか？）、かえって恐縮してしまいます。当時は一割だった女子学生が四割をこえていると聞き、うらやましくまた嬉しく思います。

職場ではR科の卒業生三人の先輩とM科の後輩一人に恵まれました。仕事内容は入職以来撮影部門（一般撮影、血管撮影、CT、MRIなど）を担当していますが、勤務年数が重なるにつれ勉強会や研修、学会に出席する機会も増えてきました。知らない

地方へ出掛けて行って嬉しいのは、やはり同窓生と会えることです。今回この原稿依頼のお電話をR科の杉浦先生から頂いたのも、東京の国立がんセンター病院で二週間にわたる研修を受けている最中でした。研修参加者中四人が同窓生でしたので、杉浦先生を知る三人で先生に電話をし、それぞれ歓談することができました。また、国立がんセンター病院にも同窓生の方が一人在職されており、短い期間

でしたが気楽に色々なお話が伺え、有意義に過ごすことができました。卒業年は違つても、坂の上の同じ学び舎で過ごしたというだけで打ち解けられるということとはとても素晴らしいことです。これから多くの同窓生に出会う機会があると思うのですが、それを楽しみにしてそこから生まれる職業人のつながりを大切にしていきたいと思つています。

それでは、二一世紀へ向けてますますの発展と躍進に大いに期待し、私からの一言とさせていただきます。

在学中の思い出

短N二 上平 公子

学校を卒業してから早いものでもう四年が経とうとしております。今回この文を書かせて貰うに当たり、学生時代の友人と改めて学生生活の思い出について語り楽しい時間を過ごすことができました。

友人のなかでもやはり思い出深いことといえば臨地実習のことでした。三年次は大半が臨地実習となります。毎日

慣れない病院の中での実習はすべてが新鮮で多くのことを学ぶことができました。学校での勉強の中でみんなそれぞれに理想の看護婦像を描きながら勉強をしてきましたが、いざ三年生となり病院という現場に出てみると、自分の勉強不足や力のなさに、理想と現実のギャップを感じさせる毎日でした。

いま思うと実習グループみんなまで泣いたり笑ったり本当に充実した学生生活が送れました。実習でもそれぞれ交替で各科を廻り勉強していくのですが、行く先々ですばらしい先輩看護婦さん達や、温かく私達実習生を受け入れて下さる患者さんに触れることができました。

そして小児看護婦の実習に行けば、卒業後は小児看護の道へ進みたいくなり、地域看護の実習に行けばそちらの道に進みたいくなり、グループのみんなまでよくそんな話をしていた事を思い出します。実習に出た事で将来の選択肢が増え、

広い視野で看護が見えるようになった気がします。

また友人と夜遅くまで大量の実習記録に悩まされ、みんな朝寝坊をしてあわてて病院に向ったことなど笑いの絶えないエピソードと、実習中に学んだ事、患者さんから逆に励まされたことなど、多くの力が現場に出た現在でも支えていてくれると思います。

勤務している病院に実習生が来る度にその頃の事を思い出し、新鮮な気分になさてくれます。これからも医療、看護に携わる一人として、在学中に学んだこと、初心を忘れないようにしていきたいと思っています。

同窓会を終えて

短R二二回生一組

三好 利治

平成一一年一〇月九日、私達R学科一二回生一組のメンバーは岐山会館(岐阜市)で同窓会を開催しました。同窓生が全国に広がっていることもあり出席者が一〇名と少数

ではありましたが、皆揃って「なつかしい」と声を上げ会はずは楽しく明るい雰囲気でした。遠くは東京、静岡、富山から参加頂き何時の間にか結婚があったり異動されていたりと話題は尽きず時が過ぎました。会が終わりに近づくと徐々に寂しさが湧いてきました。次回はクラス全員が集い懐かしい思い出に花を咲かせたいと思いました。R学科一二回生一組の皆さん次回是非参加下さい。



仕事仲間に後輩を!

求人件数・求人数が年々厳しさを増しています。未来に野望をもって巣立つ後輩のために求人情報をお寄せ下さい。

年度	M	R	N
	求人数	求人数	求人数
8	294	751	7,456
9	409	635	8,782
10	288	391	8,411

(大学概要より)

お知らせ

永年にわたり同窓会にご理解とご協力を頂いた前学長小林瑞穂先生のささやかな慰労会を催し、感謝の気持ちを込めた記念品目録を贈呈させて頂いたのが二年前でした。この度二年の歳月を経て記念品をお渡しできる時(平成一二年一月二五日)を迎えることができました。重要無形文化財保持者(人間国宝)加藤卓男先生による陶器(写真)をお贈りしました。

寄付

一月一日、渡辺道治氏(短R)より四〇五〇円分の切手を寄付頂きました。ありがとうございました。



専攻科修了生、同窓会に加入!

平成一一年四月から母校に専攻科地域看護学専攻(定員二〇名・男女共学)並びに専攻科助産学専攻(定員二〇名女子のみ)が開設しました。関係者各位の理解により専攻科修了生を同窓会員として迎えることになりました。

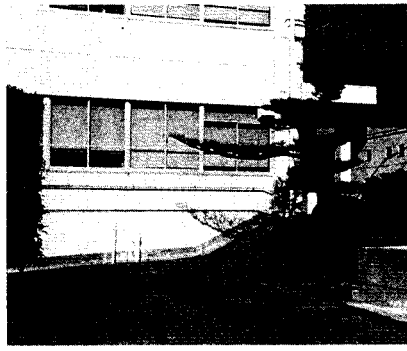
ここに同窓会会則の主な改正事項を記します。

- 一、専攻科修了生は本会会員であること。
- 二、本科卒業生が修了生の場合、会費を免除すること。

瞑想の小道

前号でお知らせした母校第三の名所「瞑想の小道」(写真)を掲載します。

R棟二号館(おにぎりのサワダがカツ弁を販売していたり自販機コーナーがあった建物の跡付近)へ向う途中の石畳です。



齋藤 富樹教授を偲んで

三宅 正美

平成九年六月二〇日一〇時〇一分永眠されました。七〇歳でした。人生八〇年といわれている時代に少々早かったと思います。

先生はこれまでに再三入院を繰り返されておられまし

たが、とうとう旅立たれてしまいました。何度目かの入院の時、お見舞いに行った折、先生が言っておられました。先生を、覚えております。「もう俺はそんなに、長くないから入院していてもわがままいっているんだよ」と、今から思うと、ある程度ご自分の死を悟っておられたのかなと思います。

先生と私との最初の出会いは昭和五三年五月だったと思います。各務原市の航空自衛隊の病院(当時検査部長)を定年退職(五〇歳)され、本学に來られました。臨床検査部門に関して、すべて堪能な先生でして、本学では、血液学と病理学を担当していただきました。

学生には厳しい面、やさしい面、両方もちあわせ、臨機応変に対処されていきました。一方学生からの人気は抜群のものがありました。

又、専門の臨床検査ばかりでなく、雑学の大家でもありました。物知りといいますが、色々なことを知っておられ、研究室へ訪れると、いつも何か読んでおられる姿が浮かんできます。私も多くの事を教えていただきました。今想う

と先生のご趣味は何であったろうか考えたとき、あまりきかされてはいなかったが、『お酒』には目がなかったように思います。ビールはあまり好んでおられなく、ビールをすすめると「こんな泡食えるか」といって、(あわをくうをひっかけたのかなと思った)ビールはあまり飲まれなかったが、日本酒は特に好んでおられました。杯を重ねるほど、例によって歌がでてくるのですが、決まってるのが、カラオケなしの独唱で『北上夜曲』でした。誠にいい雰囲気、情緒たっぷりの歌いぶりでした。

先生の出身は、岩手県盛岡市でしたので、やはり故郷の懐かしさがあつたのだろうと想像しておりました。

このように回想しておりますと、色々走馬燈の如く思い出され、切りがないのですが、いずれにしても、永遠の旅にいかれたということは、あまりにも早すぎたし、もつともつと学生諸君にも色々なことを教授してほしかったと、悔やんでいる次第です。

尚、卒業生諸君におかれましては、生前の先生の思い出をいつまでも心に秘めながら、今現在の仕事に専念していただ

だきたいと思えます。最後になりましたが、齋藤富樹先生の永遠の旅立ちにあたり、心からご冥福をお祈り申し上げます。

平成一〇年一〇月

お知らせ

母校の岐阜医療技術短期大学(旧 国際医学総合技術学院)のホームページが開設されております。リンクで同窓会のページを盛り込む方向で検討したいと思っております。ご期待下さい。

又、Eメールでの近況報告、異動報告などお寄せ下さい。ホームページ、Eメールアドレスはこちら。

☆母校ホームページアドレス
<http://www.u-gifu-ms.ac.jp/>

☆Eメールアドレス(事務局)
onogi@u-gifu-ms.ac.jp

群青の風一〇号

アンケートの結果

	M	R	N	計(人)
学位を取得した	1	14	0	15
学位を取得のため勉強中	9	31	6	46
学位取得を考えている	64	121	26	211
取得しない	209	141	47	397
無回答	58	23	8	89
計	341	330	87	758

回答を頂けなかった会員の皆様方の中にも、多くの方が学位取得を希望されているという情報があり、実質も多かったとご協力ありがとうございました。

祝・初当選 水谷 優志氏

(無所属新人)

昨年四月の統一地方選挙の四日市市議会議員として見事初当選。本同窓会では初の快挙を遂げ得ました。

立候補者数 四七名
(定数三九名)
得票数 三七四二票
(第七位)

同窓会会計報告

〈収入の部〉

項目	平成10年度決算(円)	平成11年度予算(円)
会費	2,510,000	2,670,000
その他	9,808,236	11,223,528
合計	12,318,236	13,893,528

〈支出の部〉

項目	平成10年度決算(円)	平成11年度予算(円)
活動費	548,112	400,000
会議費	27,999	100,000
交通費	95,750	100,000
慶弔費	0	30,000
通信費	412,860	400,000
助成費	32,300	500,000
備品費	13,687	20,000
その他	0	0
預金	11,187,528	7,843,528
特別費	0	4,500,000
合計	12,318,236	13,893,528

十五年表彰

平成一一年度

蟹江 匡(M科)
竹内よし子(M科)

採用

藤井 輝明 助教授(N)
粥川 早苗 講師(S)
榊原千佐子 助手(S)

三井 政子 教授(NM)
加藤 芳枝 助教授(S)

大野 弘恵 助手(S)

山田 富生 事務職員

小石 晶子 図書館司書

村井 智子 事務職員

退職

宮部 郷子 事務職員

新設

宮田 延子 教授(NC)

小野 桂子 助教授(S)

松下 延子 講師(S)

NM 専攻科 助産学専攻
NC 専攻科 地域看護学専攻

併任

三宅 正美

東海福祉情報観光専門学校校長

新理事長就任

神野 哲州

新役員紹介

(平成十・一一年度)

会長 森 晴雄(国M6)

副会長 伊東明宏(国M9)

近松 薫(国R9)

笠野陽子(短N1)

古田美和(短M11)

三好利治(短R12)

上田広美(短N1)

武藤延秋(短M2)

奥田大輔(短R12)

堀ちづる(短N1)

佐伯浩和(国M10)

野田智明(短R7)

上平公子(短N2)

吉村成雅(短R5)

坂本寛文(国M2)

大塚 誠(国R1)

増田 豊(国R3)

お願い

会員名簿の会長挨拶文に挟んであるハガキにご記入の上必ず投函願います。

また、名簿の空欄箇所をご存知な方もお知らせ下さい。

編集後記

毎号同じ言葉ですみません。今回も記事の内容に新鮮さがあまり感じられず、少々古さが目立っています。

待望の会員名簿と共に皆様のお手元へ配布できた喜び、関係者一同充分に味わっております。

記事として取り扱っておりますが、求人情報を一件でも多くお寄せ頂きますようお願いいたします。

また、新棟建設が今夏より着工予定です。ご期待下さい。